

**平成23年度
乳用種初生牛生産費調査
報告書**

【要約版】

平成24年2月

alic 独立行政法人農畜産業振興機構

1. 調査の概要

本調査は、酪農家 169 戸を対象として、酪農経営における乳用種初生牛の生時から 10 日齢までに要する費用を調査した。

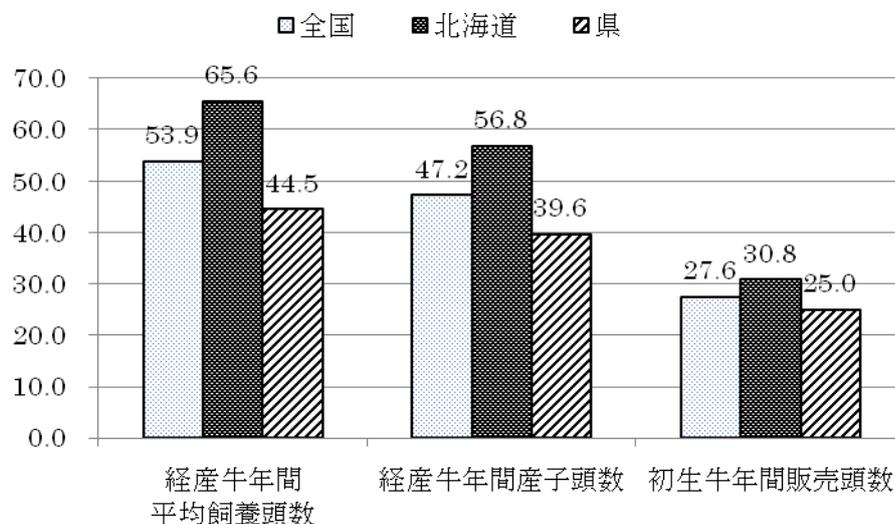
2. 調査結果

(1) 調査対象農家の経営概況

本調査における調査対象農家の概要は、全国平均では、経産牛年間平均飼養頭数 53.9 頭、年間産子頭数 47.2 頭、初生牛年間販売頭数 27.6 頭であった。

地域別にみると、総じて北海道の経営が県の経営に比べて大きく、経産牛年間平均飼養頭数では 47%、年間産子頭数では 43%、初生牛年間販売頭数では 23% 高くなっている。しかしながら、年間産子頭数に対する初生牛年間販売頭数の比率は北海道 54% に対して、県では 63% と初生牛として出荷する割合は県の方が高くなっている。

図 概要－1 調査酪農経営の概況
(経産牛年間平均飼養頭数、経産牛年間産子頭数、初生牛販売頭数)
(単位:頭)



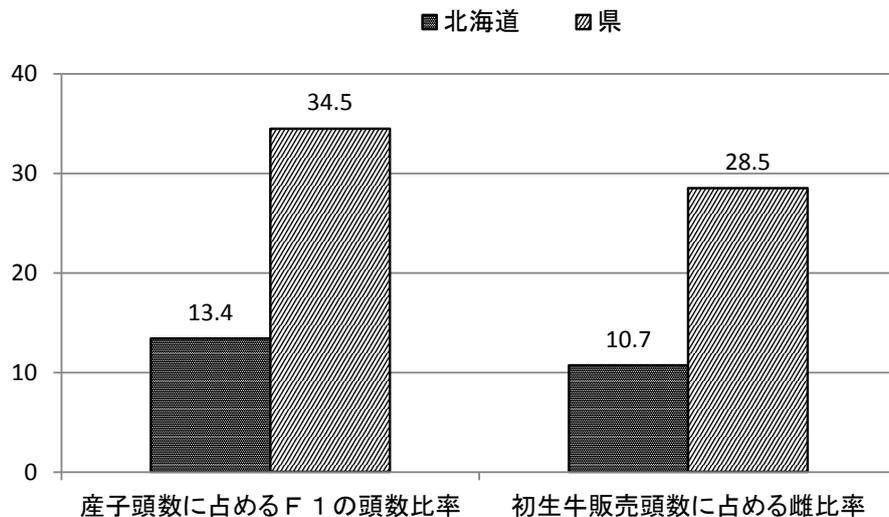
なお、初生牛の平均販売日齢は北海道の 11 日齢に対して、県では 31 日齢と 20 日長くなっており、販売日齢の差が販売価格の差に表れている。

表 概要－1 初生牛の平均販売日齢と初生牛販売価格

	初生牛の 平均販売日齢 (日齢)	平均販売価格 (円)
全国	22	48,863
北海道	11	34,326
県	31	60,461

図 概要－２ 産子頭数に占めるF 1比率と販売頭数に占める雌比率

(単位：%)



また、産子頭数に占めるF 1比率は県が35%と北海道のそれを大きく上回っている。また、初生牛年間販売頭数に占める雌比率についても県が北海道を大きく上回っている。このことから、北海道と県では初生牛の位置づけに大きな差があることを示している。

(2)生産費の概況

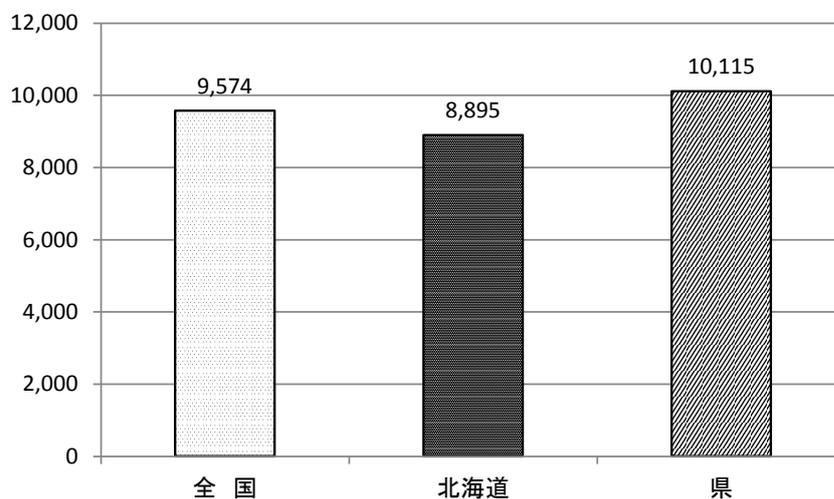
乳用種初生牛1頭当たりの生産費について、地域別、経産牛年間平均飼養頭数規模別に概観すると以下のとおりである。全国計での生産費は9,574円でそのうち84%が労働費と飼料費であった。

① 地域別にみた初生牛1頭当たり生産費

北海道の8,895円に対して、県では10,115円と14%高かった。しかし、生産費の太宗を占める労働費と飼料費の合計比率は両地域とも85%で地域差はなかった。

図 概要－３ 乳用種初生牛1頭当たりの生産費

(単位：円)



労働費は県が5,843円に対して北海道は4,955円と県が888円高く、飼料費も北海道が2,560円であるのに対して県では2,699円と県がやや高かった。なお、初生牛1頭当たり労働時間は北海道が2.9時間であるのに対して、県では3.7時間と0.8時間の差があった。また、労働費のうち、県では雇用労働費比率が北海道に比べて高かったことも特徴の一つであった。

表 概要－2 乳用種初生牛1頭当たり生産費の構成比

(単位：%)

	労働費		飼料費	敷料費	衛生・医薬品費	水道・光熱費	その他資材費
	家族労働費	雇用労働費					
全国	56.9	54.2	27.5	4.7	7.2	3.4	0.3
北海道	55.7	55.2	28.8	3.9	8.9	2.3	0.5
県	57.8	53.6	26.7	5.3	6.0	4.2	0.1

② 経産牛年間平均飼養頭数規模別にみた初生牛1頭当たり生産費

全国で経産牛年間平均飼養頭数規模別の初生牛1頭当たりの生産費をみると、おおむね規模が大きくなるほど生産費は高くなっている。

県でも同様な傾向にあるが、北海道では50～79頭規模まではやや低下し、80～99頭規模で最も高くなり、100頭以上規模で再び下がっている。

この件について、調査対象農家、調査員等からのヒアリングによれば、調査対象期間が10日間と短期間であること、初生牛の哺育ではコスト意識は希薄であること、また、80～99頭規模の経営は飼養形態が様々で必ずしも効率的な飼養が行われていない、といった要因があると考えられる。

図 概要－4 経産牛年間平均飼養頭数規模別にみた初生牛1頭当たりの生産費

(単位：円)

